
どうやら俺は転生できるらしい。

kakaze

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どうやら俺は転生できるらしい。

【Nコード】

N1890Z

【作者名】

kakaze

【あらすじ】

俺はいつもの通り過ごしていて、たまたま早く起きただけだったんだがな。いつの間にかに転生とかな…夢じゃないとありえんだが、現実だ。

初投稿で文法ごちゃごちゃです。あまり文才がないので嫌な人は来ないほうがいいです。それでもいい人は、生暖かい目で読んでいただければと思います。

いきなりの転生（前書き）

初投稿です。生暖かく見守ってもらえたら嬉しいです。
感想、アドバイスをもらえれば幸いです。

いきなりの転生

俺の名前は風霧進だ。かざきりすすむ 高校生だ。ただ、顔面が酷い。そのせいで学校でいじめを受けている。まあいつものことさ。バスで学校に通っている。現在もバス待ちだ。俺はいつもより少し早くに学校に行くこととしていた。いつもはもっと遅いが今日は早く起きてしまった。「今日も天気がいいなあ……」……バスがやっときた。何故か俺の体に……え？

……なんだここは。なんか密室っぽいが……ん？目の前によく見ると変な奴がいる。男っぽいが、何かが違うな。

「変な奴とは失礼な……一応神だぞ？」

うわ……心読んできた……

「当たり前だ神だもの。」

ふむ神とな……これは……転生フラグ!!

「まあそうしてやるが……いい加減心で話すのやめろ。」

「何故に？」

「面倒だ」

「……おk」

「そついやお前の名前聞いていないな。」

「ああそうだな…俺の名前は風霧進だ。」

なんか厨二病っぽいとかね…いや何でもない

「そうか…じゃあ進お前自分が死んでいるのは分かっているな？」

「は？死んでたの？俺？夢じゃないの？」

こりゃたまげたな…

「ハア…だから神って言っても驚かないのか…」

「まじか…今まで夢かと思ってふざけていたのに…」

「まあ落ち着けその、なんだ、うん何か俺がね、人の姿でバス運転してたらさ、ハンドル操作間違えてね…」

「おいおい…まああそこでの生活はあまり楽しくなかったからいいかな。」

いじめとかいじめとか…

「悲しいな…とりあえず転生させてやる。」

上から目線かわらぬか。なんだかなあ…

「ん？どいかに？」

はっきり言って結構気になる。

「ん〜とだな…（ペラペラ）ここなんかどうだ？」

紙使うのか。もっとテレパシーみたいなかんじかと思ったのに。どれどれ…え〜と 多種族あり 魔物あり ギルドなどもあり。などなどe t c…

「アバウトすぎないか？」

本当にe t cとしか書いてないんだよな…

「調べんのがめんどろだったんだ」

とってもシンプル！過ぎる…

「う〜んとところで…チート能力ありか？神よ。」

ふふっオンライン小説でもよくあることだからなあ無いと困る…わけでもないがなあ…

「ありがた…そうゆうものは普通こっちが言うんじゃないのか。」

あれ？なんかあきれてる？

「別にいいだろどっちでも。」

「チート能力は何にするんだ進。」

……………そつだ。

「なんでも武器を出せるようにしてくれそ」「さて」「なんだ？」

「能力は1つのみだ。」

チツ

「じゃあなんでも武器をだせ……なんでも出せるようにしろ。」

「なぜかえたし。」

「まあいいから神のひろおおいお心で許して。」

「そうかよ。」

「あとさなんでも出せる能力さ、9歳まで使えなくしてくれ。」

「…分かった。記憶を残して転生だよな。」

「あ、あと転生した後9年間記憶封印してくれ。」

「面倒だなあ……」

「頼む」

「分かったよ……」

ものわかりがいいね！

「余計なお世話だ。」

なぜ読んだし

「顔だ顔。」

なるほど

「それじゃあ転生させるぞ進。来世でもがんばれよ。」

「ああ。じゃあな。」

「ふう…疲れた…」

「あ、いいわs……あゝあ…送っちゃまったよ…」

神の苦勞は絶えない。

いきなりの転生（後書き）

あまりきつい感想などを書かれたら少しへこむかもしれませんが。

9年…と5日(前書き)

2話です。

あまりよく書けていませんね。がんばります…

9年…と5日

9年経った。いや、正確には9年と5日だ。ある程度このことが分かってきた。が、その前に今俺は大変な危機に遭遇している。…
…どうしてこうなったorz

- - - - - 5日前 - - - - -
- - - - -

なるほど。この町はジャロールと言い、自分はそれなりの家に住んでいるのか…

記憶が戻って良かった…あの神なんか適当だったからな…えと今は…午前10時か遅いなってえ？あれ？文字読めないと思ったら読めた…ああ9歳までの出来事や習ったことも憶えていたのか。理解理解。さて、自分はどんなスペックかね？

名前は、フィシー・オル・カン まあいいかなんか貴族っぽいかな
貴族のようなもの。

……運動　すごく…できます…

……勉強　読み書き抜群。

……魔法　初級のライトすらできない…てか魔法あんのかよ…

これはびみょうだ

魔法使いたかったorzしかもこの世界魔法の才で成績が決まるよ
うだ。なのでここではつまり貴族みたいなのの中でも落ちこぼれか
…旅に出るにはうってつけだな。早く行きてえ
うくんまあがんばれ俺。
あとは人間関係か……

「うわっ」

つい口に出してしまった。どうやらこの体相当モテるようだ。なにせ
1日10回は告白されている。しかし、付き合った人はいないよう
だ。無口だったらしくそこを「カワイイ」などとすりよってくる
らしい。ふふっなかなかやるな…しかし振る！！みんな振る！！女
恐怖症の俺にそんなの押し付けられたらひとたまりも無い。振って
やるぜ！ みなぎってきたw

- - - - - 現在 - - - - -

「なんでよ!!」

うるせえな。

「いい加減に諦める!!」

現状を整理しよう今俺は、告白を断っている！！5日連続で…理由
はこう「どうしても付き合いたい」「運命の赤い糸よ!!」「な
どなどその他頭の痛くなる言葉。夕方になり、「明日も来るよ」と
言う奴をうざったく思いながら返答をしている。こいつはユース・
ジャン・クドと言っらしい。

貴族みたいなのだ。こんなのが同じ貴族みたいなのなのが嫌過ぎ
る。この世界大丈夫か？

「ねえ聞いてるの?」

「あ?」

どうやら現状整理の最中になんか言ってたみたいだ。

「今日はもう遅いから帰るけど、明日も来るからね!」

ふう…今日も逃げ切ったか…危ないな…それにしても今日は早めに帰ったな…嫌な予感しかしねえ…

9年…と5日(後書き)

会話があまり無いので短いです。すいません。

主人公が能力を忘れてるのは、ある複線があると考えたり考えな
かったり…

見てくださっている皆さんありがとうございます。

感想、アドバイスがあればどしどし受け付けます。よろしくお願
いします。

夢の中で(前書き)

誤字、脱字がありましたら、報告してほしいです。

夢の中で

……あれ？俺あの後帰って母と父に少しばかり叱られて……そういえば何故叱られたのだ？まあいい。んで飯食って寝たはず………それなのにどうして高原にいるんだ？

「それはだん」「うわっ」「驚くことでもないだろう……」

後ろに神がいた。少しばかり驚いた。

「扱いが酷いぞ進。いや、フィシー。」

どっちかにしてほしい。

「ところで名前がフィシーなのか？」

「知らなかったのか？」

何だその顔は。

「はあ……まずフィシーが名前。オルがえくと……ミドルネームみたいなのだ。まあ実際にはお前の言うところの貴族の証みたいなやつだ。カンは名字。分かったか？」

「なるほど分らん。」

「言うだけ無駄だな。お前この夢から覚めたら引き出しにある古びた本に「起動」と言ってくれそんなかある程度のことか詰まっているぞ。」

引き出しに入っている引き出しに入っている……よし憶えた。

「あとお前の能力少しリミッターをかけさせてもらったぞ。」

「まじか」

「そのことも本に入っているよく読めよ。」

メンドクサイなあ

「そろそろ帰る。お前現在ただもててるドラ息子ってとこだぞ。しかももててるを捨ててるから本当にただのドラ息子だ。何とか体鍛えたりして魔法でも何でもできるようにしないとまずいぞ?」

「へーへー分かりましたよ。」

「じゃあな」

え?ちよ、ま……

「ふあああ」

あのやろつ相当なめんどくさがりやだな。さてと、引き出しを開けますかな。

おい…どうゆうことだ。本に向かって「起動」と言ってみたらアイ
○ッドなるものが出てきたぞ。デコレーションが酷いな。星とかい
っぱいついてやがる。とりあえず剥がすか。……

つけ方俺知らなかった……orz

夢の中で（後書き）

なかなか思うように進みません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1890z/>

どうやら俺は転生できるらしい。

2011年12月10日17時55分発行